研究雑話（87）障害児教育・動作学誌上実習（五）、問題設定（四）、セガンの結語：「《浮力》があれば、誰でも泳げる」（一八四二）。

藤井力夫

前回は、「手順を自分のものに」ということで、構成単位への変換、すなわち作り方をめぐる頭のなかでの変換の問題についてお話しました。「習慣」としての日課の設定、「手足」の共同運動の増強、そして「手順」をめぐる問題、これらは、E・セガンにおける障害児教育創始時の課題の整理ですが、動作学実習のあり方をも規定する内容になっています。問題設定を終えるにあたり、今回は、「《浮力》があれば、誰でも泳げる」、これをめぐってお話したい。セガンは、この言葉をかりて、比喩的に自らの立場、観点、方法を表明したと考えられます。私自身、最近になって再認識した言葉です。図に、これに関係するセガンの論理をいくつか抜き書きしてみました。

もがくほどに沈んでしまう子どもたち：浮力を利用できない障害児、彼らをもがくままにさせておいて、見殺しにしてきた。これがセガンの立場です。本来もっている浮力をどのように利用できるか。この要領を教えることが社会の役割だとする。浮力を利用できれば、沈まないだけでなく、彼自身の「生来の流れ」に乗せることができるとするのでした。

まずは余分な力が抜ける（構えの姿勢）：手足の共同運動が増強されるほどに余分な力が抜ける。これがセガンの観点です。鉄亜鈴や梯子、ぶら下がり、手押し車、のこぎり動作など、足腰からの共同運動を重視したのもこの理由でした。

できることを基礎に試めす（習熟過程）：できるようになることが自信をつけ、意欲となる。余分な力が抜けることが「浮力」を利用できることだとすれば、できるようになりたいという気持ちは、「推進力」に相当しましょう。字を書いたり、数えたり、自転車に乗ったり、その他、日常生活のなかでのさまざまな事柄に、どのように挑戦し、どのように自信をつけていくのか。これ自体の過程を浮彫にする問題、これが、重要です。

自分流のやり方で試みる（動作リズム）：浮力を受け、推進力を発揮できるためには、それなりの場面が必要です。「水を得た魚」と言いますが、通常は一匹ではありません。楽しそうに泳ぎ回るさまざまな魚を想定します。身ぶり、目線、言葉掛けなど、自分の行為をそれぞれなりに確かめながら泳いでいます。生活や労働の諸空間でどのように各自の力が発揮できているか、これ自体が研究対象となります。

（北海道教育大学教授）

結　語

「浮力」があれば、誰でも泳げる。

(pour le faire agir, penser et vivre enfin de la vie commune, il ne faut non plus qu'un point d'appui)

「白痴」の子どもたち・10人に対する6ヶ月間の実践
E.Séguin, 1841.10-1842.3

A、彼ら自身があるがままに（大人は「黒子」）。

アルキメデスの原理を知らない人はいないでしょう。子どもたちが手足を動かし、試し、考え、日常生活を過ごすためには、「**浮力**」(un point d'appui) さえあればよいのです。ギリシャ語やラテン語を詰め込むのは、浮力を奪う教育です。生まれたときの誰もが持っている諸能力、これらを応援するのが浮力を利用する教育です。**彼ら自身の諸能力**を自分で耕し、練習し、発展させ、立ち直り、改良し、最適化し、応用する。これらを応援する教育です。まさしく、「**黒子**」(le secret encouragement)としての励ましです。

B、「つまずき」は我々への「貢ぎ物」（課題）。

克服すべき困難がどこにあるか、子どもたちはその都度、**貢ぎ物** (son tribut) として私に教えてくれました。

取り組みを通じ、子どもたちを知る**術**を学ぶと同時に、私は、子どもたちにさまざまな**道**を切り開いてきました。

C、「既知」が「未知」を導く（教育の階梯）。

第1階梯（文字学習以前）：①色、②線、③差異、④類似、⑤大きさ、⑥形、⑦名前から絵図。

第2階梯（読み方の学習）：⑧絵図から名前、⑨音節から文字、⑩単語の読み、⑪聴写と観念。

D、「類似」のために「差異」から始める（教材）。

私は、知能のフォルセット(les forceps de l'intelligence)と呼ぶことができる方法を用いました。**ハメ板教具**(des planches)で、差異と類似のさまざまな形が彫り抜かれており、他方の型板(d'autre figures)は、これと一致したときのみ、はめることができます。それゆえ、位置や形、向きについての予知能力に対応して、子どもたちに間違いを指摘してくれます。

E、できることが嬉しくて（なによりも「自信」を）。

力の権威に従うか、それともすべての人間に誇りを起こさせるところの**できるようになりたいという気持ち**(une retraite d'incompétence) で従うか。白痴の子どもたちに後者を期待することはなかなか難しい。私は、自信をもたせるために、もっとも簡単な課題を設定しました。こうして、彼らの心を捉え、私はかれらと私の意志との**精神の鎖** (cette chaîne morale) を弛めていきました。

F、あるがままが嬉しくて（「水を得た魚」たち）。

私は、子どもが何かできるようになったら、他の子どもに教えるようにし向けました。彼らは、教えることがうれしく熱意をもって**教え合い**ました。それゆえ、私の成功の大部分は、彼ら自身に帰することができます。しかも、彼らは、**身ぶり**(du geste)、**目線**(du regard)、**声掛け**(de la voix)で、互いに元気づけ、彼らの知らないうちに、急速で力強い話しことばの表出へと彼らを導いたのでした。